

私たちは知っています

第二ヨハネ五・一八～二二

一九四三年、米マサチューセッツの山村の小さな教会の礼拝で神学者ラインホルド・ニーバーが祈ったとき残されています。

「神よ、われらに与えたまえ、変えることのできないものを受け入れる平静さを、変えなければならぬものを変える勇気を、そして、その二つを見分ける知恵を」

変えるべきか、変えずにいくべきか、このことが私たちの関わる職場や地域で、また、広く国家において、いつも問題となります。節操なく移り変わり、後で悔やむようでは情けない。一方、慣れ親しんだものに固執するあまり、取り残され廃れてしまいたくもない。そんなときニーバーの祈りは、まさに私たちの祈りとなります。

いろいろ努力したが、変えることは難しい。

ならば心静かに受け入れよう。痛みを伴うが変えなければならぬ。ならば勇気をもって進み行こう。でも、何より私たちに必要なのは二つを見分ける知恵。変えるものと変えないものを、どう見分ける？ どうしたらその知恵が？

「私たちは知っています」と今日、聖書は胸をはって宣言します。勉強して知識を身に着けたというわけではありません。むしろ相変わらず、分岐点に立つと迷い、たじろいでしまう私たちでは、なぜ、「私たちは知っています」と？

「神の子が来てくださった」から。そして、「真実な方を知る力を与えてくださった」から。変えるべきか、変えずにいくべきか。困ったときは、イエスさまを見上げてみよう！

こんなとき、イエスさまならどうされる？ それを互いに考え、真剣に求め合うなら進むべき道は示される。これが私たちの「知恵」です。